

様式第4号（第6条関係）

令和8年1月28日

富士見市議会議長 勝山祥様

会派名 公明党
代表 深瀬優子

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

1 期 間 令和8年1月21日（水）

2 参加者名 深瀬優子、篠原通裕、篠田剛、山下淑子

3 場所（行政視察地・研修場所）
鎌倉市役所（神奈川県鎌倉市御成町18-10）

4 調査・研修概要

（1） 観察市の概要

鎌倉市は2026年度から新たな総合計画「鎌倉ビジョン2034」「鎌倉ミライ共創プラン2030」を始動する転換期にあり、環境保全、防災、福祉の充実とともに教育政策の強化が進んでいる。2025年度から施行された教育大綱では「学習者中心の学び」を掲げ、これを具現化するために2026年度から市費負担教員制度を導入し、正規教員の採用を拡大する方針が示された。

また、教育振興基本計画（2025～2030年度）を策定し、ICT活用、生涯学習の推進、不登校支援の強化など横断的な教育マネジメントを進めている。観光面では日本遺産の活用などが継続されるが、市政全体では市民参加と協働を軸に、持続可能な都市づくりが進展している。

人口 169,249人（令和8年1月1日現在）

面積 39.7平方キロメートル

令和7年度一般会計当初予算 80,973,900千円

(2) 調査概要 鎌倉スクールコラボファンド事業「キモチと。」プログラムについて

① 鎌倉市が実施する教育施策

鎌倉市は、2025年に新たな「教育大綱」を策定し、「“炭火”的ごとく誰もが学びの火を灯し続け、生涯にわたり心豊かに生きられるまち」をビジョンとして掲げている。

市は「学習者中心の学び」を軸に、ワクワクする探究学習、地域資源を活かした生涯学習、多様性を尊重する教育環境づくりを重点方針としている。教育委員会は、学校現場・地域・保護者・子どもとの対話を重ねながら政策を形成し、外部人材や企業との協働による教育課程の充実も進めている。特に、社会に開かれた教育課程の実現に向け、プロジェクト型学習やICT活用、個別最適な学びの推進を重視している。

こうした施策は、鎌倉ならではの自然・文化・人的資源を最大限に活かし、子どもたちが未来社会で必要な力を育むことを目的としている。

② 鎌倉スクールコラボファンド事業「キモチと。」プログラムについて

「キモチと。」は、市民が日常生活の中で無理なく教育支援に参加できる仕組みとして、鎌倉市が実施している寄附事業である。市民から提供された読み終えた書籍を、連携企業であるブックオフコーポレーション株式会社の買取システムを活用して換金し、その収益を市内公立学校の教育活動の充実に活用するものである。得られた寄附金は主として鎌倉スクールコラボファンド（SCF）に積み立てられ、探究的な学習の推進、外部専門人材との協働授業、プログラミング教育やICT活用の高度化など、学校現場における新たな教育的取組を支える財源として位置付けられている。

本事業は、財源確保の手段にとどまらず、市民が教育行政に主体的に関与する機会を創出する点に意義がある。家庭で不要となった書籍が教育支援の具体的な資源へと転換される仕組みは、地域全体で教育を支える文化の醸成にも寄与している。また、企業との連携により、市民・行政・民間が協働して教育を支える持続可能なモデルとして評価されている。

③ 公教育にかける財源不足の課題

鎌倉市の公教育は、社会に開かれた教育課程の実現や探究的な学習の充実など、時代の要請に応じた教育改革を推進している。その実施にあたっては、外部専門人材との連携、教材・プログラム開発、ICT環境の整備等、多方面にわたる経費を要している一方、公立学校の予算には制度的制約があり、学校単独で十分な財源を確保することが難しい状況がある。こうした課題を踏まえ、市はガバメントクラウドファンディング（GCF）やスクールコラボファンド（SCF）を活用し、教育活動を支援する新たな財源確保の枠組みを構築している。これにより、学校現場の多様なニーズに応じた柔軟な資金調達が可能となり、教育施策を継続的に推進するための体制整備を進めている。

④ 鎌倉市のガバメントクラウドファンディング（GCF）について

鎌倉市は、ふるさと納税制度を活用したガバメントクラウドファンディング（以下GCF）を積極的に実施し、教育施策の財源確保に取り組んでいる。これまでに5回のGCFを実施し、SDGs探究、地域課題の調査、インタビュー活動など、子どもたちが主体的に学ぶ教育活動を支える資金として活用されてきた。GCFは、学校が実現したい学びを市民や全国の支援者が応援できる仕組みであり、寄附金はプロジェクト型学習や外部人材との協働、ICT活用など多様な教育活動に充てられる。市は、GCFを通じて「学習者中心の学び」をさらに推進し、子どもたちが未来社会を切り開く力を育む教育環境の整備を進めている。

⑤ 鎌倉市スクールコラボファンド（SCF）について

鎌倉スクールコラボファンド（以下SCF）は、学校が外部の人材・企業・大学・NPO法人などと協働し、魅力的な教育活動を実現するための資金を提供する仕組みである。プロジェクト型学習、プログラミング教育、ICTを活用した個別最適な学びなど、時代に応じた教育活動を支えるために創設された。これまでにGCFを通じて約2,600万円の寄附が集まり、学校現場の挑戦を後押ししてきた。2024年には「SCF活用基金」が設置され、通年で寄附を受け付ける体制が整備された。また、寄附型自動販売機の設置など、持続可能な資金確保の仕組みも導入されている。SCFは、学校の夢や課題解決を支える協働の基盤として、鎌倉の教育を大きく前進させている。

⑥ 鎌倉市教育委員会Noteについて

鎌倉市教育委員会は、公式Noteを通じて教育施策の背景や理念、現場の取り組みを市民にわかりやすく発信している。特に「教育大綱」の策定プロセスや、鎌倉の教育を目指す姿、学校現場の課題、探究学習の実践例などを丁寧に解説し、行政の透明性向上と市民理解の促進を図っている。Noteでは、教育長や担当職員が自らの言葉で政策の意図や思いを語り、教育改革の方向性を共有する場として機能している。また、SCFやGCFの紹介、学校の挑戦事例なども掲載され、教育への共感と参加を促すメディアとして重要な役割を果たしている。

5 感想及びまとめ

今回の視察を通じ、鎌倉市が展開する教育施策、とりわけSCFやGCF、「キモチと。」プロジェクト等、市民・企業・行政が連携して教育を支える仕組みの先進性を強く認識した。特に、外部人材との協働を可能にする柔軟な財源確保の仕組みや、市民が日常的に教育支援へ参画できる制度設計は、富士見市においても検討すべき重要な視点であると感じた。また、ブックオフコーポレーション株式会社との連携や寄附型自動販売機の設置など、民間との協働を通じて持続可能な教育支援モデルを構築している点は、地域全体で子どもたちの学びを支える仕組みづくりとして、大いに参考になった。こうした先進的

な取組が市民や企業からの寄附を呼び寄せ、その寄附が次の先進的な取組を支えるという好循環が確立されている点も印象的であった。

富士見市の教育施策においても、学校現場の挑戦を後押しする新たな財源確保の仕組みや、市民参加型の教育支援制度の可能性について、今後、会派として研究を深めるとともに、政策提言につなげていく必要を感じた。